

令和 7 年 12 月 11 日

岩手県教育委員会
教育長 佐藤 一男 様

岩手県立花北青雲高等学校
同窓会長 藤原 康洋
P T A 会長 平賀 弘典

第 3 期県立高等学校再編計画（修正案）に関する要望書

令和 7 年 11 月 17 日に公表された再編計画（修正案）においても、8 月 5 日に示された（当初案）から修正されることなく、本校の情報工学科の生徒募集を令和 10 年度に停止する計画が示されているところであり、下記の観点から情報工学科の生徒募集継続をお願いしたく要望いたします。

記

1. 教育活動

本校は花巻北高等学校から分離独立し、昭和 49 年 4 月に商業高校の花北商業高等学校として開校し、平成 15 年 4 月には情報工学科・ビジネス情報科・総合生活科の 3 学科を有する花北青雲高等学校に改編され、総合的専門高校として今日に至っております。

「自立創造」の校訓の基、社会的に自立し広い視野を持ち社会に貢献できる力を養うことを大きな目標としております。学びの大きな特色としては、情報工学科・ビジネス情報科・総合生活科の専門的学習を通し、工業、商業、家庭の専門的な知識・技術を身に付けるとともに、各学科の学習を横断的に学ぶことができることがあげられます。また、クラブ活動もスポーツ、文化部ともに活発に活動しており、バドミントン、卓球部の多くの主力選手は情報工学科に在籍し、市外から入学する生徒も多くなっています。

これまでに 3 学科ともに募集定員に達しない年度もありましたが、大きな定員割れもなく総合的専門高校としての機能・効果は十分表れていると思われます。また、機械や電気など専門的分野を学習する工業専門高校に対し、

本校は情報化社会に対応して幅広く工業分野を学べることが生徒に受け入れられており、本校の工業系だからこそ志願している生徒が募集停止により工業専門高校に進路を変更することは考えにくく、集約という形での工業高校への学科の一本化は、結果的に工業系を目指す生徒の全体数を減少させてしまうことにもつながりかねません。募集停止については今後の志願者数を見ながら判断することとし、3学科からなる総合的専門高校として存続させていくことが最良と考えます。

2. 若者の地元定住と人材確保

平成18年1月に1市3町が合併した花巻市でも年々、少子高齢化、人口減少が続いており、若者の就職や進学による大都市圏への流出もその一因となっていると思われます。

本校は、生徒の希望に十二分に対応した進路選択ができるよう配慮しており、就職を選択する生徒は地元での就職を希望する生徒が多いことから、その受け皿となる地元企業の協力を得ながら、希望をかなえるべく努力をしており、毎年8割以上が地元や県内企業に就職しています。

昨今、全国的に労働力不足が叫ばれる中、若者の人材育成と地元への定住促進は地元企業の人材確保に大きく貢献し、地域経済活動の活性化に資するものです。

3. 地域への貢献

本校は、石鳥谷町唯一の高等学校として地域の方々から愛され、すっかり地元に着定しています。そうした中、生徒たちはボランティア活動や就業体験など地域と関わる活動に積極的に取り組んでいます。商店街のにぎわい創出の一環として、商店主と一緒に新商品の企画・開発や販売促進、自治体の産業まつりへのロボットの展示・実演のほか、各種スポーツイベントの際のボランティアなどに多くの生徒が関わっており、地域活動振興の一助となっています。

4. PTAとして

私たちPTAは子どもたちひとり一人の夢や希望を叶えさせてあげたいという親の気持ちは今も昔も変わることはありません。特に花北青雲高校入学を希望する生徒は、夢、魅力、やりたいことなど選んで入学してきています。

今回、情報工学科が高校再編対象となり廃止という提案が出されていることは非常に残念でなりません。花北青雲の情報工学科は他の工業高校と

は違いコンピュータシステムのハードウェア、ソフトウェア両面の学習を行い、通信ネットワーク技術やメカトロニクス技術を体験的に学んでいます。より専門性を目指して学ぶ数十年前から変わらない黒沢尻工業のような専門工業高校ではなく、現代の社会・企業のニーズに合った生徒を育てているのが花北青雲であることは承知されていると思います。

また、クラブ活動ではインターハイに度々出場しているバドミントン部、過去に全国高等学校野球選手権大会に出場経験のある野球部と部員の多くは情報工学科の生徒であり、募集停止はクラブ活動の存続にも大きな影響を与えます。さらに、校外活動や地域行事の際のボランティアなど地元の方々との交流機会も多く、地域に密着した活動を続けています。

保護者として腑に落ちないのは、10 数人しかいない学科が複数ある高校を残すために約 30 人以上継続的に入学している学科の高校を減らすという、普通の会社では考えられない的外れな提示に多くの会員が疑問を感じている事実も理解していただきたいです。

この学び舎を卒業した生徒は、地元企業へ 8 割から 9 割近く排出されていると聞いております。地域に貢献できている学校だということ、それを知っているからこそ中学生時代に工業系を考えるなら花北青雲が良いと子どもも親も納得して受検していることも理解してください。

これからも、地域・生徒・PTA が連携・連動して、更に魅力ある一層信頼される生徒を育てられる学校を目指し、PTA の立場でも尽力していきたいと思っております。